

COOP-JOSO News Letter

2019年9月1回号 発行/常総生協広報G

2019年度活動テーマ「JOSO食材でかんたん・うちごはん」

常総生協 秋の強化月間（9月～11月）

常総生協はどんな生協？ 「いのち育む食と地域環境を」

新しく組合員になられた方もいる中で、今までの常総生協のあゆみ、そしてどのような商品政策を行ってきたのか？当時を語る元副理事長 大石氏が書いた過去記事(NewsLetter2015年9月1回号から)を掲載して、ご紹介していきます。

常総生協が他の大きな生協と違うところや、食べものに対してどのように向き合ってきたか？それは今でも、私たちが問題や課題が出た時に、向き合う際の柱になっています。時代が変わっていきながら、常総生協のスピリッツは変わることなく、組合員、生産者の力を信じて進んでいこうと思います。

（専務理事 伊藤博久）

○常総生協に入った当時は？

私は常総生協が設立されて8年目に入協しましたが、常総生協はその出自(自治会の朝市)からしても、そのあゆみからしても、生産者と消費者が共に苦楽を共にして作ってきた生協です。



常総生協 元副理事長 大石光伸氏

当時は、組合員の理事さん、組合員さんが産地に行き、生産者との話し合いや商品の企画をおこない、さらに石けん委員会や青果委員会などの専門委員会、そして小さなエリアなのに地区運営委員会が12もありました。

私はトラックで配達する先々で、班の組合員のみなさんに徹底して教育を受けました。生産者も商品を届けに生協のプレハブによく来てくれていました。

○常総生協の精神をひと言で言うと？

「常総生協の商品政策は何なのか？」「基準は無いのか？」とよく聞かれます。

常総生協のあゆみを振り返ると、日本における地域生協誕生の社会背景(公害問題・食品添加物への意識)に規定され、その再編(合併吸収・巨大化)の波間に翻弄されて紆余曲折した歴史ですが、常総生協には「商品を生み、みんなで育てる」精神がいつも原点にあるよう

に思います。「食はいのち」と共に言える関係こそ「いのちある食」を育てるものと思います。

○巨大化する生協を舞台に偽装事件

1980年代後半からはじまる第Ⅱ期の「生協の連合化・巨大化」の中に、すでに食がどう歪められてしまうかという問題の発端がありました。第Ⅲ期の2000年代に入ってから、「安心・安全」を謳っていた生協を舞台に「食の偽装事件」が噴出します。

巨大化した生協のグローバル商品戦略は2008年に「中国産CO餃子事件」として消費と生産の問題を顕在化させました。

1996年～2010年までの食をめぐる社会的事件と、常総生協は食に対してどのような考えと対応をしてきたかを年表にしました(3Pに掲載)。

1996年の常総生協の「生協連合離脱」という組合員総会での決断は、コープ商品がなくなるという中で事実上の組合分裂という苦しみを伴いましたが、「正直に生きよう」と宣言して離脱したことで、これらの事件に巻き込まれずに済みました。

組合員によるこうした決断こそ実は「常総生協の商品政策」に他なりません。

2000年には、「この先10年で食のグローバル化がすすむ。ならば地域で食糧自給しよう」という方針は食の安全を確保する道だったと思います。

○毒性に対する認識の転換

1997年、化学合成物質や添加物に対する常総生協の考え方も大きく変わりました。「これ以下なら安全だという基準はない」と。

ほんの一分子であれ生体内の代謝を攪乱する「**環境ホルモン様作用**」の発表は、従来の農薬や添加物、合成洗剤やダイオキシン類の毒性に対する認識(急性毒性・慢性毒性・遺伝毒性・催奇形性等に「しきい値」があるという概念)を根底から覆した大きな転換点でした。

○脂質に対する対応

油(脂質)の**トランス脂肪酸問題**や**n-6系列の油の過剰摂取によるアレルギー誘導問題**は常総生協内では意外に早く1996年前後には問題にされてマーガリンや油の商品取り扱いも絞り込まれました。

20年後の今年、ようやくアメリカがトランス脂肪酸の排除を決めました。

○薬漬けの近代畜産から遠ざかること

効率優先、抗菌剤・ホルモン剤多用の近代畜産は「**薬漬けのアニマルファクトリー**」(動物工場)と言われていました。

常総生協は必死で近代畜産とは逆の生産の方向を模索し、飼料の地域自給にも生産者と共に取り組んできました。

山木屋牧場、鈴木牧場、サツラク農協、やさとの鶏肉・鶏卵、有機の卵、岩瀬牧場などは菌との共生、自然の摂理に添った生産です。

近代畜産の家畜の体内では、殺菌に対する微生物の生き残りの反撃のように、大腸菌は毒素を作る遺伝子を獲得し、鶏の盲腸で静かにしていた**サルモネラ菌**(SE:サルモネラエンテリティディス)は卵巣・卵管に迫り出されて卵の中にまで侵入してきました(in EGG)。

草食動物の牛に草を食べさせるのではなく濃厚飼料を食べさせて牛独特の胃の微生物共生を破壊し、挙げ句に病死した牛の肉骨粉ミートボーン meal を食べさせるサイクルは世界に**狂牛病(BSE)**を発生させました。

○食のグローバル企業戦略に抗して

巨大バイオ企業**モンサント**による遺伝子組み換え作物(GM)は、あらゆる加工食品に組み替えトウモロコシのコーンスターチを忍ばせ、ついに2003年日本の私たちの地元でGM大豆の栽培を始めました。

常総生協は「私たちの大豆は絶対に汚染させない」と生産者と共に身体を張りました。

モンサントが日本各地でGM大豆を秘密裏に作付けていることが発覚して全国的な事件になってしまいました。グローバル企業による日本への食糧戦略を躓かせました。

○何をどう食べるか「食生活指針」

他方、「生協は安全な食品を提供すればそれでよい」とはせずに、「**何をどう食べるか**」もみんなで問う活動を続けてきたのは常総生協組合員の特徴です。

2001年、食生活の欧米化に対して「常総生協の食生活指針」を対置し、毎年の期末試験のように「**食生活点検表**」による点検活動、食生活のバランスをとうとう努力を重ねてきました。

おかずを減らそう、肉や牛乳を減らそう、主食を6割、生きた発酵食品を、海藻を毎日、油の摂取を減らして・・・と日本の伝統的食文化と「**粗食**」の運動でした。

○「核の時代」の食と環境とは

40年の歴史の最後に困難に襲われました。地域の食と環境の放射能汚染です。

1986年チェルノブイリ原発事故でのヨーロッパの小麦汚染によるCOイタリヤスパゲッティの放射能問題、日本まで森林汚染されて検出されたいだけ問題、そして1990年代後半に続いた東海村再処理工場爆発事故やJCO臨界事故は当時も生協内を騒然とさせましたが、すでにそれは**2011年の福島原発事故**を予感させていました。

もう桁外れな汚染で、大切に大切にしてきた食の安全とそれを生み出す大地や海が一瞬で汚染され、子どもたちのかけがえのない成長期の自然とのふれあいを奪われ、絶望の淵に落とされました。

皮肉なことにかつての経験と教訓が2011年の対応に生かされることになりました。それでもこの時代にたまたま生まれ、育ちゆく子どもたちへの健康影響は心配で、たいへんな事をしてしまったと悔やまれます。20-21世紀の歴史の中のできごとです。

○共に「生き方」が問われる時代

他方で、福島の人々のリスクと犠牲の上に今の私たちの生活があったことに「自分たちのくらしを守る」とはいったいどういうことだったのか。共に汚染されてしまった田畑や海を前にして「生産者と共に安全な食べものを作り育てながら共に生きてゆく」ということの本当の意味も鋭く突きつけられました。

○悩みながら未来へつなぐ 足元から

常総生協組合員も生産者も、この原発事故汚染で困難を抱え、迷い、悩み、傷つきました。

時代も消費者意識も経済事情も大きく変わってしまったのかもしれませんが、今いちど足元からくらしのあり様を見つめ直し、家庭から地域から、協同の気持ちを寄せ合いながら組合員も支え合い、生産者と共に悩みも緊張感も共有しながら「いのち育める食と環境」をもういちど作ってゆく歩みをみんなで始めませんか。

(NewsLetter2015年9月1回号掲載より引用)

○第Ⅲ期 1996年～2010年 **食のグローバル化、菌の異変、噴出する食品事件**

年	【食や環境をめぐるできごと】	【常総生協】
1996年		北関東協同センター脱退「独立宣言」 「食はいのち」「正直に生きる」
	遺伝子組み換え食品輸入許可	遺伝子組み換え食品輸入許可取消を求める緊急署名を持って政府と交渉
	大腸菌 O-157 発生	大腸菌のペロ毒素産生遺伝子獲得は近代畜産による抗菌剤多用によるものとして畜産政策を整理。発酵飼料・放牧の岩瀬牧場開始。
1997年	「 環境ホルモン 」概念発表される 厚生省「タマゴによるサルモネラ食中毒発生防止分科会」	毒性学が根本から覆される（微量でも影響、しきい値なし）。リプロダクトヘルス政策化。 「 腸は免疫の司令塔 」発酵食品重視政策
1998年	サルモネラ問題で鶏卵洗卵・冷蔵流通指示「有機」表示をめぐる有機農産物 JAS の動き	鶏卵無洗卵方針 有機農産物 JAS 化（商品化）反対声明
1999年	東海村 JCO 臨界事故 周辺住民 600 余名が被ばく者認定	地場農産物等の放射農汚染緊急調査 「 脱原発・エネルギー政策の転換についての声明 」
2000年	雪印食中毒事件 JAS 法改正で有機 JAS 認証制度導入される	スーパー等流通業の牛乳安売による生産原価割れが引き起こした事故と総括
	遺伝子組み換えトウモロコシによるアレルギー事件（殺虫毒素タンパク産生によるアレルギー発生 / 通称スターリンク事件）	食のグローバル化に対抗して 「 地域自給宣言 」発表 （生鮮品の 7 割の地域自給をめざす）
2001年	日本で狂牛病（BSE）発生	草食動物にリサイクル飼料・濃厚穀物飼料を与える問題として動物の本来的飼育を
2002年	雪印牛肉偽装事件 全農チキンフーズ偽装事件	『 常総生協食生活指針 』発表 （主食6割、おかずを減らそう）
	関東の生協（コープネット）と全農が共同開発した「無薬飼料国産産直若鶏」にタイや中国産鶏肉を混入していたことが発覚	→狂牛病の影響で鶏肉需要増し原料不足に。生協連合から「欠品は厳禁」とされたことから外国産を混入してまで欠品を回避が原因。
2003年	モンサントら GM 大豆栽培事件 茨城県谷和原村の畑で遺伝子組み換え大豆（GM）試験栽培	モンサントの動きについて農水省と協議を重ねるが対応せず。「私たちの大豆を遺伝子汚染させない」と、生産者と共にGM大豆すき込み行動。警察沙汰に。
	常総生協らのすき込みを契機に全国6ヶ所でGM大豆を秘密裏に栽培していたことが発覚	県および環境省は国内 GM 栽培規制に動く。谷和原村・生産者・おかべや・常総生協で地場大豆産直提携契約。
2004年		自然の滋味「ダシをとろう」運動
2005年	茨城県で鶏インフルエンザ発生	密飼の近代養鶏批判。地元有畜複合経営重視地場契約大豆の不作に直面、大豆備蓄開始
2006年	有機農業推進法制定	茨城県有機農業推進協議会へ参加。政策提言 「 森・里・海の流域自給をつなぐ有機農業 」
2007年	（ミートホープ事件） コープ牛肉コロツケ偽装事件	地場有機小麦の契約栽培
2008年	中国産コープ手作り餃子農薬混入事件	
	三笠フーズ「輸入事故米事件」 （商社経由で輸入されたコメでカビや残留農薬基準値以上の「事故米」を食用転売）	地場畜産の飼料自給化方針。 肉鶏用の飼料米生産契約。 鶏へ飼料用玄米を食べさせる実験
2010年		TPP に対する理事会見解と地域自給方針決議
2011年	東日本大震災 東電福島第一原発事故・放射能汚染	放射能による食品汚染対応。被ばく調査（健康調査）を開始。東海第二原発運転差止訴訟。TPP 参加に反対して国会前座り込み

豊田直巳写真展 『フクシマ～尊厳の記録と記憶』

2019年 9月11日(水)～16日(月) 10時～18時 最終日は4時まで
 土浦市民ギャラリー 土浦市大和町1-1 tel029-846-2950 入場無料

豊田直巳ギャラリートーク9月14日(土) 14時から16時

世の中には見えないもの、
 見えなくさせられているものがあるのでは、と、
 感じていませんか。
 そんなあなたに届けたい、もうひとつの物語。

福島第一原発事故からすでに8年半が経過して社会的関心がうすれつつある(「何でもなかった」「大したことがなかった」かのようにする政府とマスコミ) 現在ですが、おそらくは30年・50年と語り続けられる歴史事実(福島原発事故)と私たちの存在関係・共犯関係・加害-被害関係をもういちど豊田さんの目(写真)を通じて思い巡らす良い機会かと思えます。「奪われた村」「福島を生きる」「散り散りバラバラに暮らす」「遺言～原発さえなければ」・・・今わたしたちが福島の人たちに比してなんとかここで暮らせているのは、たまたまの偶然にすぎません。何もしないで無関心を装うならば、やがてわたしたちのくらしも街も、簡単にこうなるでしょう。同じように取り扱われるでしょう。子どもたちはいなくなるでしょう。そして忘れられるでしょう。

こうした地味な問い直しの作業を、わたしたちの組合員が地域で開催してくれます。生協の組合員たちが毎日のたいへん忙しくやりくりしたいへんな生活の中でもなお、心に留め置いて「思いを至らせる」場を設けようとする活動に敬意を表します。組合員さんのみならず地域の生協として地域のみなさんに見てもらいたい、そんな思いです。

※組合員さんによる企画・運営の写真展です。常総生協として後援しています。



9/16さようなら原発全国集会 お手伝いさん募集!

常総生協と、東海第二原発運転差止訴訟団で共同で出店します。毎年春と秋に参加しています。是非、ご協力の程宜しくお願い致します。

- 【ブース内でやる事】
- 1) 原発関係の書物の物販
 - 2) 東海第二原発運転差止訴訟団の賛同人募集
 - 3) 生協商品(パン、飲み物等)の販売
- 【集合時間】
- 搬入からお手伝いできる方
 現地集合(東京都渋谷区 代々木公園 イベント広場 けやき並木) 9:00 生協集合(生協から一緒に行く方) 7:30
 - 途中からお手伝いできる方
 参加できる時間帯を教えてください。



-----キリトリ-----

9/16(月) さようなら原発全国集会出店ブースお手伝いします。

※9/6(金) 締め切り

お名前: _____ 組合員番号: _____

行き方: 自分で現地に直接行きます。・ 生協から一緒に行きます。
 ※〇をつけて下さい。

お手伝い時間: _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分までお手伝い
 きます。

